

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

## 小児科医のための不登校診療ガイドライン

一般社団法人日本小児心身医学会不登校ワーキンググループ

子どもの心とからだ 日本小児心身医学会雑誌 33号4巻

2025年2月発行

Minds 掲載 無

### ■1 漢方薬

疾患:

不登校

有効性に関する記載ないしその要約:

薬物の使用についての項に、下記の記載がある。

『不安が強い、気分の落ち込みがある、こだわりが強いなどの場合は、向精神薬の使用が有効な場合もありますが、その使用に不安がある場合は精神科医や小児心身医学の専門医またはそのような薬物の使用経験の多い医師に相談してください。また、漢方薬を適宜使用するのもよい方法です』